

当期の概況(連結)

当中間期は、昨年後半からの企業業績の回復基調が継続するなど、景気回復の裾野が着実に広がっており、当社の事業領域においても全般的に好調に推移しました。

こうしたなか、当中間期の連結売上高は前中間期比13.6%増の3,197億円、連結営業損益は前中間期39億円の損失から54億円改善し15億円の利益となりました。連結経常損益につきましても前中間期82億円の損失から76億円改善し6億円の損失となりました。連結純損益につきましては、前中間期の105億円の損失に対し、76億円改善し29億円の損失となりました。

セグメント別概況

情報

金融機関においては新紙幣対応の投資が中心でしたが、一部の金融機関ではリテールバンキング、ネットワーク関連での投資拡大へと移り始めました。加えて、官公庁のIT投資の回復、ビジネス向けカラープリンタ市場の拡大などにより、外部顧客向け連結売上高は前中間期比5.6%増の1,601億円となりました。営業損益については、開発投資の増加、新紙幣対応の無償保守費用の増加、売価ダウンなどが影響し、前中間期の51億円の利益に対し18億円の利益にとどまりました。

通信

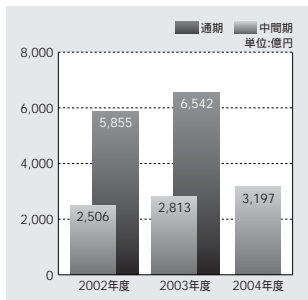
通信キャリアの投資はブロードバンドIPネットワークの拡充で活発化しています。また企業における情報通信関連の設備投資は回復基調にあり、外部顧客向け連結売上高は前中間期比17.1%増の521億円となりました。営業損益については、事業の再構築によるコスト削減もあいまって、前中間期の16億円の損失に対し3億円の利益へと改善しました。

電子デバイス

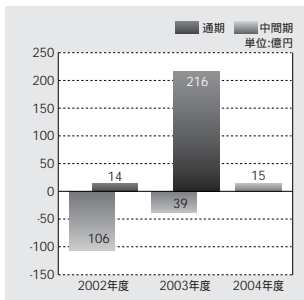
半導体市況は全体的に好調に推移しました。なかでも当社の得意とする「パーソナル・モバイル」市場向け商品である携帯電話用音源LSI、PHS用ベースバンドLSI、大型液晶ディスプレイ用ドライバLSI、電子辞書やゲーム機などに使われるP2ROMTM、車載用LSIなどの需要が旺盛でした。

これにより、外部顧客向け連結売上高は前中間期比27.5%増の766億円となりました。営業損益は、売上増とコスト削減により前中間期の21億円の損失に対し34億円の利益となりました。

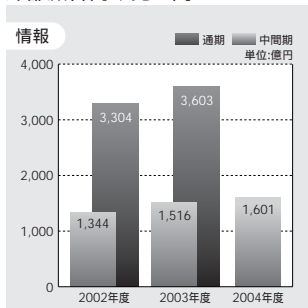
売上高



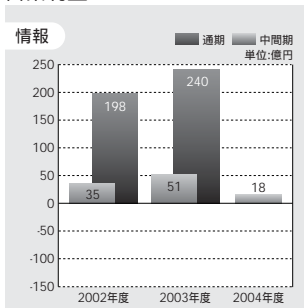
営業利益



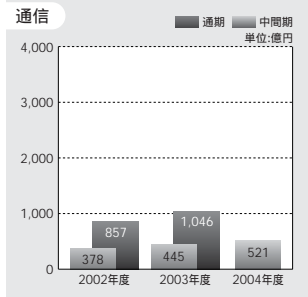
外部顧客向け売上高



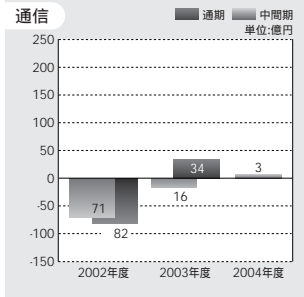
営業利益



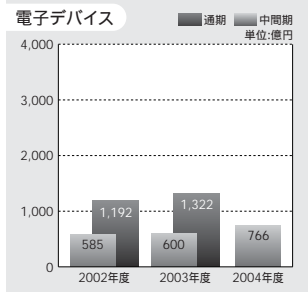
通信



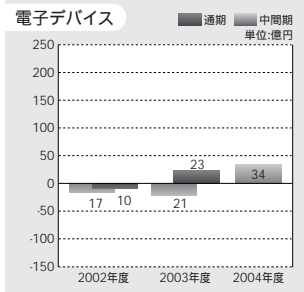
通信



電子デバイス



電子デバイス



(注) 上記セグメントに含まれない、その他セグメントがあります。